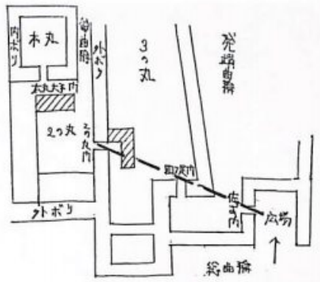
22-5

「城を歩く会」５月定例会　平成２２－５－１１

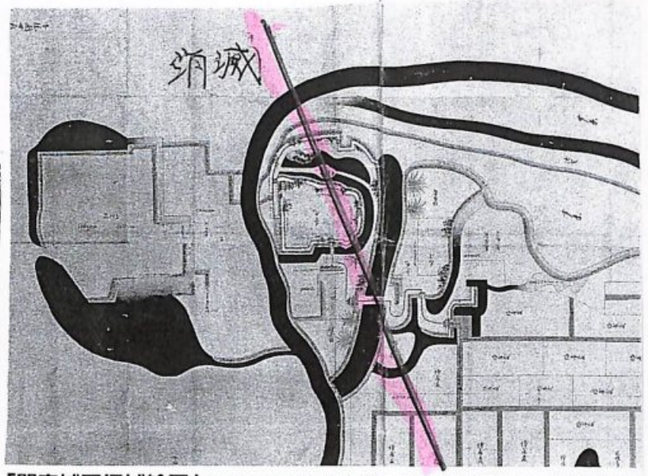
水運の要衝に立地する川関所の出世城　山岸弘明

「川を握る関宿城を訪ねる」資料　①関宿城旧地を歩く

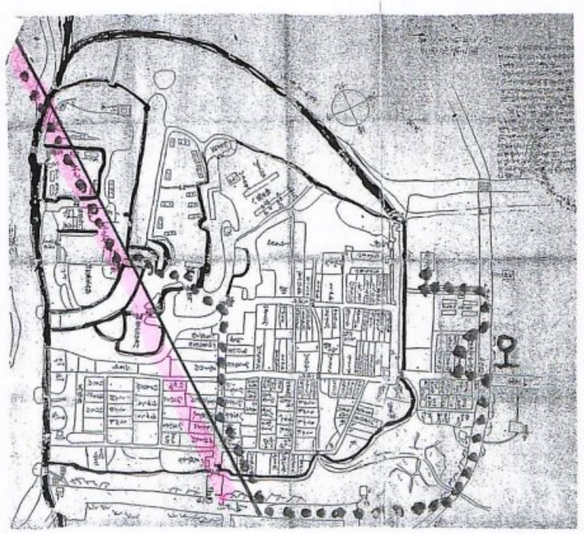


主郭部の登城ルート概略図

モギ内宿城博物館



「関宿城正保城絵図」（国立公文書館内閣文庫蔵）◎正保城絵図を見ると、利根川の本流と旧流路を巧みに利用していたことがよくわかる。



関宿城絵図画（関宿町教育委員会所蔵）

関東の戦国時代に古河公方重臣が築き、小田原北条氏が攻め取り、
江戸時代は譜代老中城となった 江戸城外郭の守り

ふるさとの歴史を訪ねて

関宿藩　◉野田市（第八十九回）

水運と江戸防衛の拠点

千葉県の最北端、利根川と江戸川の分岐点に位置する関宿は、江戸時代、水運と江戸防衛の拠点として、重要な役割を果たしていました。

天正18年（1590）、関東に入国した徳川家康は、東北諸大名に対する防衛の砦として、関宿の地を重要視します。

この地を治める関宿藩の初代藩主には、異父弟の松平康元を配置。以降、歴代藩主に譜代大名を配していきました。

関宿藩が担った役割の一つが、江戸防衛のための川関所の管理です。船で江戸川から江戸へと行き来する人や物資をあらためていました。川の両岸には、多くの河岸や宿場が整備され、関宿は、利根川水運の中継地として、経済的にも大きく発展したのです。

江戸時代を通して、藩の拠点となったのは「関宿城」。寛文11年（1671）、江戸城の富士見櫓を参考に築城されたものでした。

繁栄をみせた関宿藩も、その後、明治4年（1871）の廃藩置県により解体。これにより、藩の拠点であった関宿城も取り壊されました。

県立関宿城博物館では、利根川水運や関宿藩が果たした役割などを紹介。水運と関宿の歴史が学べます。

●ガイド●

県立関宿城博物館
TEL 04（7196）1400
●交通　東武野田線川間駅からバスで「関宿城博物館」下車。無料駐車場あり
●開館時間　9時～16時30分
●休館日　月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）
●入館料　一般200円、高校生・大学生100円、中学生以下・65歳以上無料

関宿城の天守閣を再現した県立関宿城博物館

主要年表

長禄元年1457	古河公方方梁田成助築城
天正２年1574	北条氏政が攻めとる
〃　18年1590	徳川家康関東移封 松平康元２万石が入城
元和２年1616	松平重勝２万石
〃　５年1619	小笠原政信２万石
寛永17年1640	北条氏重２万石、城を修築
正保元年1644	牧野信成１万石
明暦２年1656	板倉重宗５万石
寛文９年1669	久世広之５万石
〃　11年1671	御三階櫓を再築
天和３年1683	牧野成貞５万石
宝永２年1705	久世重之５万石（再封） 以降　代が居城とする
宝暦６年1756	新御殿造営
慶応４年1868	明治維新
明治３年1870	本丸藩庁舎焼失
〃　４年1871	廃藩置県
〃　６年1873	廃城、御三階ほか取り壊し
明治44年～昭和４年、26年～	江戸川改修工事で河川敷に
平成７年	関宿城博物館を開設

1）とりあえず９時３５分発の朝日自動車バスに乗車

①東武野田線川間駅９時２０分集合（注意＝いつもの時間より早い）
博物館周辺に昼食できるお店はありません。必ずお弁当を確保。

②川間駅から９時３５分発「朝日自動車バス」乗車
所要３０分、５１０円、「関宿城博物館」降車
次の関宿城博物館経由バスは１１時２０分です。

③バスおよそ15分、日光街道東往還の松並木を通過。旧街道の雰囲気が残る。
江戸時代、日光への脇往還、副路線として通行量も多かったという。

(1)松並木の少し先から左へ入った小林家に関宿城埋め門が現存するが立ち寄らない

②開会行事は関宿城博物館構内で行います。

関宿城博物館と関宿城址を歩く

2）城を模した「河川の博物館」 —— 関宿城博物館

①平成７年オープンの千葉県立博物館。関宿城跡近くの河川敷に立地し、関宿城を名乗るが、場所も形も違う模擬天守。

②入館料一般団体１６０円、６５才以上無料

~~自由~~見学（１０時２０分～１１時２０分）→ 職員の解説を依頼したいとおもう

③１階（常設展示室）

「河川とそれにかかわる産業」、河川を扱う全国でも希有の博物館

エントランスホール＝

第１展示室＝近現代の利根川と江戸川

第２展示室＝近世の利根川と江戸川

第３展示室＝河川交通と伝統産業。高瀬船の大型模型を中心に両脇に河岸問屋、醤油蔵などを再現

④２階（企画展示室）

４月２７日～５月３０日＝火縄銃展（開催中）

６月１日　～９月２６日＝関宿藩の歴史

⑤４階（展望台）

利根川、江戸川の流れを始め、筑波山、富士山など関東一円の山なみを一望

⑥１１時３０分　関宿城博物館前再集合

3）スーパー堤防で昼食　（１１時３０分～１２時１５分）

①「関宿にこにこ水辺公園」周辺で持参の昼食を楽しむ

②集合写真

③関宿城址に向け出発。１０分ほどで城址が一望できる堤防上に到着

関宿城博物館

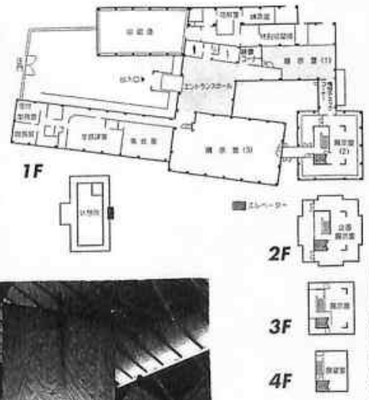
開館時間
午前9時から午後4時30分まで
（ただし入館は午後4時まで）

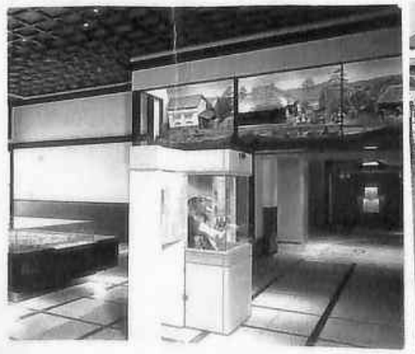
休館日
月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日休館）
年末（12月28日～12月31日）
その他メンテナンス等で、臨時に休館することがあります。

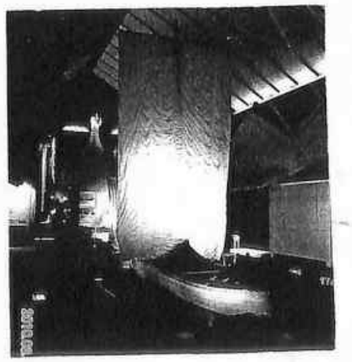
入館料
一般200円　大学・高校生100円
中学生以下、65才以上、身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方（手帳提示）及びその介護者の方は無料
（ただし、展覧会等期間中はその都度定める）

一般団体 160円
65才以上 無料

建物の概要
敷地面積：11,134.81㎡
延床面積：2,172.31㎡（うち天守閣は 511㎡）
展示面積：714㎡（うち企画展示室は 120㎡）
構　造：鉄筋コンクリート造り・一部鉄骨造り、平屋建て一部天守閣造り
【3層4階（江戸城富士見櫓風）】
休憩所：木造平屋建







4）関宿城址を把握する —— 全景を遠望

①資料「関宿城絵図」で城址地形を確認する。

(1)城址の西側主郭の大半は江戸川河川敷とスーパー堤防に成っている。本丸、２の丸の一部、３の丸、発端曲輪、総曲輪の大半、関所跡、からめ手低湿地、城下などを遠望

(2)本丸を回る低地は利根川旧水路。内堀と外堀の２重水濠があった。利根川（江戸川）本流と旧流路を巧みに利用した縄張りを読み取る

(3)「正保城絵図」をみると城の西対岸の山王村にも土塁と堀が見え、城造りになっている。外郭であろうか

(4)旧利根川（江戸川）を背負った「後ろ堅固の城」、変形梯郭式といえるか

5）本丸御殿に御三階櫓がそびえた —— 本丸跡（詳細は別紙参照＝大森会長担当）

①本丸の大半は土手敷と堤防に消え、東側およそ１／10が現存

(1)西側は旧利根川に接し、３方に内濠、土塁、白壁塀を回している

土塁の屈曲は折れ歪み、横矢升形？

②かつて本丸御殿（表御殿、中奥、奥御殿＝明治３年火災焼失）新御殿、庭園、御三階櫓（寛文11年建造天守代行＝明治７年競売、取り壊し）があった。虎口は本丸大手門、極楽橋門、からめて門の３か所、うち大手は櫓門であった。

③本丸御殿は城主、家族が生活した。明治６年の「存廃令」で廃城となり、本丸の建物すべてが取り壊されたが、本丸御殿の一部、新御殿（宝暦６年建造、老中久世広周蟄居隠居御殿）が実相寺客殿として移築され、現存している。

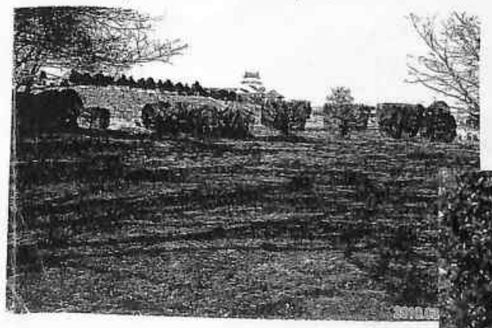
④関宿城址碑

関宿城の歴史、関宿城の曲輪　関宿城博物館説明看板

スーパー堤防

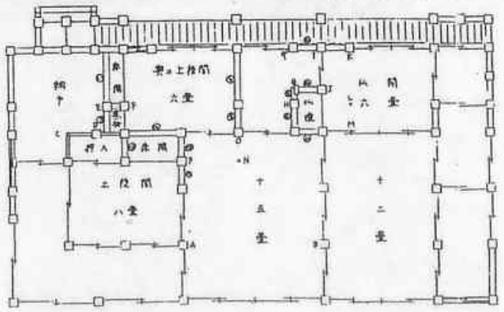
← スーパー堤防から本丸や水濠跡をふかんする

実相寺に現存する本丸新御殿 ↓



本丸跡から関宿城博物館を遠望

↓ 本丸跡碑



6）利根川旧流跡を水濠に利用 —— 2の丸跡

①2の丸も大半が土手敷と堤防に変わり、わずかに3の丸との虎口周辺が残る

②正保絵図の2の丸は南側が本丸への登城路で升形と大手を防御する一文字虎口（かざし土居？）と一部重臣邸（城代？）、北と東側は＝帯曲輪になっている。

⑴2の丸の本丸虎口は馬出し、外升形の組み合わせにもみえる

③南側は消滅、東側と北側も旧流水濠と一体化して水田になっている。たんぼ真ん中のあぜ道が2の丸帯曲輪の名残、あぜ道を境に内堀と外堀に分かれた。

⑴帯郭は防御上の備えで水濠を2分して攻めにくく、守備側の武者走りとした。同じ造りが江戸城平川門帯曲輪にも見られる

7）のどかな牛声が聞こえる酪農の町 —— 3の丸、発端曲輪跡

①2の丸と3の丸を分ける外堀、絵図を見ると櫓門で角馬出しのようにもみえる。

②3の丸も重臣邸と武器蔵などが置かれた。

③微妙な道路の曲がりは当時の門跡地形を表している。ここにも水濠があり、門が置かれた。資料によって四脚門、四つ足門、埋め門などまちまち。このあたりを発端曲輪といい、本丸、2の丸、3の丸で主郭部を構成した。

⑴城近い小林家に現存、教育委員会説明は「埋め門（埋み門）」としている

④3の丸、発端郭周辺に牛舎が並んでいる。戦前、戦後期を通じて酪農が盛んであった。牛の匂いやなき声が、のどかな田園風景をかもし出している。

⑤かつての関宿城址、主郭の一画百余年前の栄華を語るには余りにも侘しい。

⑥佐武門　関宿城博物館説明看板

8）武家屋敷の小姓町、鷹匠町、藩校跡を進む —— 総郭

①主郭虎口の佐武門から先は総曲輪、直線の登城路が大手門へ続く
総曲輪の東側およそ2／3が残り、おおむね旧状をとどめている。

②一帯は侍屋敷町で左側を小姓町といった。城主の日常世話を担当した小姓たちが居住したものだろう。

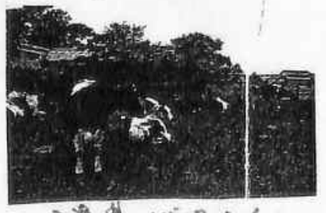
⑴鍵の手十字路（クランク）＝防御の工夫

⑵総曲輪に久保町、桜町、鷹匠町など。およそ 100人の家臣団が居住。

③藩校・教倫館跡＝文政6年藩主久世広運が創設した家臣子弟の学校。漢学を主体に人材育成をめざした。明治5年廃校。

④武家屋敷の区割りと教倫館　関宿城博物館説明看板

⑴関宿城図、関宿城周辺概念図、教倫館、現存する城内にあった建造物



酪農がさかん

佐武門跡

←移築した小林家母屋門

←藩校教倫館

武家屋敷の区割りと教倫館

9）2重升形で囲む —— 大手門跡、馬出し

①関宿城大手門と城を囲む土塁、堀　関宿城博物館説明看板

⑴川のフィールドミュージアム、発掘調査で見つかった土塁の痕跡
関宿城周辺概念図、江戸前期の大手門、江戸中期の大手門、関宿城図

②水濠跡（現況は排水小川）

③大手門後ろに升形＝土塁白壁、食い違い虎口

④前面の防御施設は馬出しの変形か、2重升形になっている

⑴単純に直進して城内に攻めこまれない虎口前面に設けた土塁と曲折に注目
大変珍しい「かざし土居」か。2重升形は飯野陣屋などに、かざし土居は高田城にみられる。

10）江戸川下流の洪水を留める —— 棒出しと閘門（こうもん）

①棒出しは天保年間、洪水が江戸川へ流れこまないように合流点の両側から丸太棒を打って川幅を狭めたことをいう。

⑴棒出しが作られたことで江戸川下流は洪水を免れたが逆川沿いの関宿周辺や利根川下流は逆に水害を被ることになった

②明治43年の大洪水を契機に行われた利根川、江戸川の大改修工事と昭和2年の関宿水閘門工事の結果、昭和4年棒出しが撤去された。

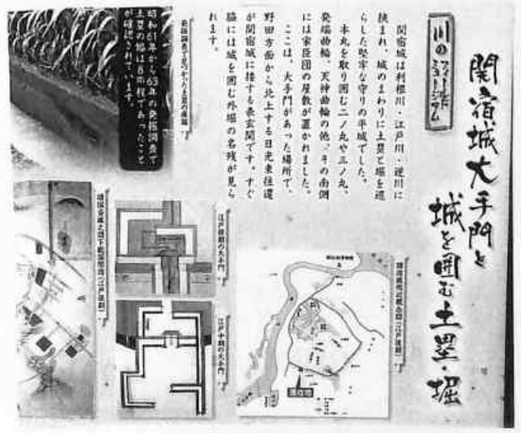
③元気組有志はスーパー堤防に登って江戸川棒出し跡を遠望

11）全国でも珍しい川の関所 —— 関宿関所跡碑

①江戸川が開削された寛永18年ころ創設、はじめ幕府直轄で、のち久世藩が委任された。全国でも珍しい川の関所で、利根川と江戸川を結ぶ河川要衝地に立地、「入り鉄砲と出女」に代表される船荷の検査や船舶交通の整理などに当たった。

⑴御三家威光をカサにした水戸藩の船がいばって通行したというエピソードが伝わる

②水運の発達とともに関所周辺に民家が立ち並び、宿場、城下町はおよそ5万人の人口を数えたといわれる。



関宿城大手門と城を囲む土塁・堀

↑大手門の看板　↓現況

川の史跡

棒出し

棒出しの説明看板

←内宿内町筋

この資料の写真は
保科 様本さん 撮影です

１２）城下町の雰囲気を伝える ―― 江戸町

①江戸町＝江戸との船舶交通で賑わった町の意か。関宿城下町で、城主の参勤交代は江戸町からスタートした。古い町並みが城下町の雰囲気を伝えている。
②旧道は途中南側にクランク、外堀ともいえる大沼を迂回した。
③元関宿小学校の空き地を囲む低い石垣は関宿関所石垣を転用している。
④江戸町には歴史を刻む寺院が多い。今回は廻らないが参考までに記した。
⑴宗英寺＝松平康元創建、康元の墓、足利晴氏の五輪塔、船橋隋庵の墓、悪水路建設の碑などがある。
⑵実相寺＝応永年間創建の古刹、唐破風の中雀門、関宿城新御殿、久世家代々の位牌、鈴木貫太郎の墓など。
⑷雲国寺＝寛政５年創建、藩政時代の面影を残す。本堂格天井が圧巻。
⑸大龍寺、金龍院、福寿院

１３）太平洋戦争の終戦内閣 ―― 鈴木貫太郎記念館

①鈴木貫太郎＝幕末慶応３年関宿藩士長男に誕生、海軍大将をへて枢密院議長などを歴任した。太平洋戦争終結を希望された昭和天皇の下命で昭和20年４月鈴木内閣を組閣、終戦の大役を果して８月総辞職した。昭和23年逝去。38年生家で記念館を開館。
②関係資料などを展示、入館無料、小休息、トイレもお借りする。

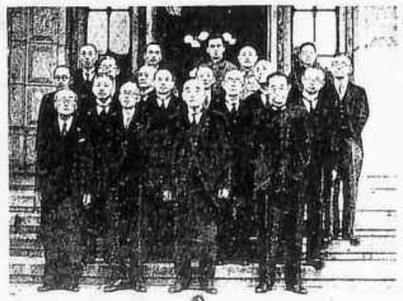
１４）徳川家康の生母お大を祀る ―― 光岳寺地蔵菩薩

①光岳寺＝慶長７年関宿城主松平康元が母お大伝通院殿供養のため弘経寺を創建。のち家康の命で光岳寺と改名した。寺紋の「三つ葉葵」が輝く。
②松平久松家＝康元は家康と異父兄弟になる。お大は松平広忠との間に家康を生むが、織田、今川両家の対立で離別され、のち久松俊勝に嫁して康元を生んでいた。
③地蔵菩薩＝母お大を慕う康元が建立したものでお大の遺髪が埋められている。本堂にお大の位牌も祀るがみえない。

１５）記念館前バス停で解散 （注意＝行き先で乗り場が少し異なります）

①川間駅行き（三叉路左折すぐ＝所要３０分、５１０円）
　バス時刻＝１６時０８分
②東部動物公園駅行き（記念館前から＝所要２５分、４６０円）
　バス時刻＝１５時０２分、３２分、１６時０４分、３０分

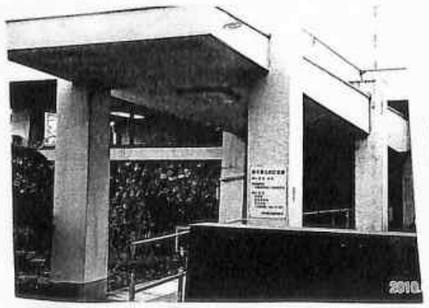
以上

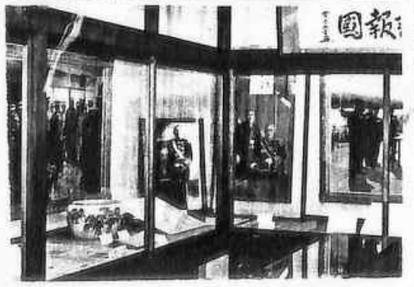


終戦内閣の顔ぶれ

昭和20年４月７日に成立した内閣です。この内閣の大きな目的は、日本をいかに最良な方法で終戦を迎えさせるかということであり、貫太郎総理もずいぶん悩んだそうです。
この内閣の中には、終戦に対して奔走した、内閣書記官長・迫水久常氏と、当時の陸軍をおさえた陸軍大臣・阿南惟幾氏などの顔も見えます。

鈴木貫太郎記念館



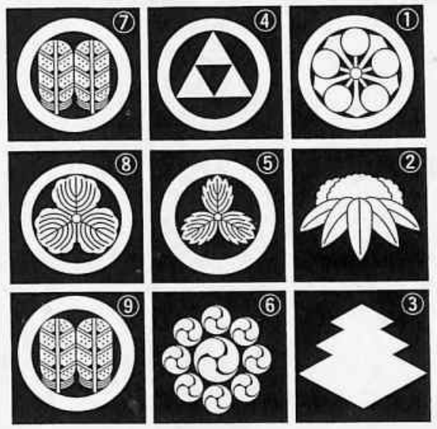


家康の生母お大を
まつる地蔵菩薩

関宿藩歴代藩主とミニ年表

1590（天正18）松平（久松）康元　２万石
1591（天正19）　①↓　４万石
1603（慶長８）　忠良
1616（元和２）　⇒美濃国・大垣へ
越後国・三条より⇒1617（元和３）松平（能見）重勝　２万６千石
1619（元和５）　②　⇒遠江国・横須賀へ
下総国・古河より⇒　小笠原　政信　２万２千７百石
1640（寛永17）　③↓　貞信⇒美濃国・高須へ
遠江国・久野より⇒　④　北条　氏重　２万石
1644（正保元）　⇒駿河国・田中へ
武蔵国・石戸より⇒　牧野　信成　１万７千石
⑤↓　親成　２万７千石
1647（正保４）
1656（明暦２）　⇒☆京都所司代となり摂津、河内へ
京都所司代より　⇒　板倉　重宗　５万石
⑥↓　重矯
1657（明暦３）
1661（寛文元）　４万５千石（弟・重形に５千石分封）
↓　重常
1662（寛文２）
1669（寛文９）　⇒伊勢国・亀山へ
相模、武蔵より　⇒　⑦　久世　広之　５万石　☆老中職にあった
↓　重之
1679（延宝７）
1683（天和３）　⇒備中国・庭瀬へ
常陸国内より　⇒　⑧　牧野　成貞　６万３千石
1688（元禄元）　☆将軍綱吉の側用人
1695（元禄８）　↓　７万３千石　成春
1705（宝永２）　⇒三河国・吉田へ
三河国・吉田より⇒　⑨　久世　重之　５万石　再封
1713（正徳３）　☆老中
1718（享保３）　６万石
1720（享保５）　↓　暉之　５万８千石　弟に分封
↓　広明
1748（寛延元）
1777（安永６）　☆京都所司代
1781（天明元）　☆老中
1785（天明５）　↓　広誉
1817（文化14）　↓　広運
1830（天保元）　↓　広周　☆老中
1851（嘉永４）　☆老中　６万８千石
1860（万延元）　★安藤信正と共に公武合体政策を推進
★皇女和宮降嫁を策し成功
５万８千石
★老中職免、致仕蟄居
1862（文久２）　↓　広文　４万８千石
★広周永蟄居による
★関宿藩佐幕派、広文を擁して上野彰義隊に合流、敗戦
４万３千石
★大義順逆を誤ったとして広文隠居を命じられる
1868（慶応４）　↓　広業
★廃藩置県
★関宿県、印旛県を経て千葉県となる
1871（明治４）

内宿城博物館



関宿城

Sekiyado-jyo（千葉県野田市）

「城と所度総覧」から

久世家

「日本歴史大事典」から

㈠下総国（千葉県）関宿藩主久世氏。小野姓とも藤原姓ともいい、また寛政系譜には村上源氏とする。三河国額田郡の豪族小野平十郎高広の子孫広長は、母が久世十郎永次の女であったので、母方の姓を名乗って久世広長と称したという。広長は徳川氏の祖松平清康・広忠に仕え、その子平四郎長宣は一五六三（永禄六）年の三河一向一揆のとき、家康に叛いて討死をした。時にその子三四郎広宣は年わずか三歳であったが、大久保忠吉に養われ、のち罪をゆるされて家康に仕えたびたびの合戦に戦功を樹てた。しかし一時家康の不信を蒙って蟄居していたが、大坂の役には大功をたてて下総国海上郡で三千石を加賜された。その第三子広之ははじめ家光に近侍し、側衆・若年寄を経て一六六三（寛文三）年老中に任じられ、六九年下総国関宿城主となり、五万石を領した。その子重之は七九（延宝七）年父の跡を継ぎ、所領のうち墾田三千石を弟重勝に分封した。のち備中国庭瀬に移り、さらに丹波国亀山・三河国吉田を経て一七〇五（宝永二）年に至り旧地下総国関宿に帰った。この間重之は寺社奉行・若年寄を歴任し、一七一三（正徳三）年に至って老中に任じられ、その功により一八（享保三）年には一万石を加増、合わせて六万石を領するに至った（後代、六万八千石、幕末に四万八千石）。その後広明も老中となったが、くだって広周は幕末多難のときに当り、寺社奉行を経て老中となり幕政に力をつくした。その孫広業のとき廃藩。華族に列し、子爵を授けられた。

久世広長―長宣―広宣―広之―重之
　　└重勝
　　└暉之―広明―広誉―広運―広周―
　　└広文―広業

（上島　有）

くぜひろちか　久世廣周　一八一九―六四　幕末の老中。旗本大草高好の次子で、一族関宿藩主久世広運の養子となり、一八三〇（天保元）年襲封。奏者番・寺社奉行・西丸老中を経て五一（嘉永四）年老中となる。安政大獄のとき大老井伊直弼の水・尾・越三侯の処分に反対していったん職を退けられた。大老横死後老中安藤信正の推挙により再任、老中首座として安藤とともに幕政にあたり、公武合体をおしすすめ、和宮降嫁に成功した。その後長州藩の長井雅楽の公武合体・開国遠略策に頼り、また一橋派を含む幕閣の改造を企てたが、安藤の失脚や雅楽の公武合体策の失敗により一八六二（文久二）年六月辞職のやむなきにいたった。致仕後在職中の失政を問われて減封・永蟄居に処された。

（波笠　安彦）